



やしろ

令和5年7月20日
幸手市立八代小学校
幸手市平須賀1-14
0480-48-0960



感謝の気持ちを込めて

校長 富澤敏夫



梅雨が明けそうでなかなか明けない状況が続いています。西日本や東北地方など梅雨末期の大雨で被災された地域の皆様、また幸手市内や近隣の地域で突風により被災された皆様にもずもってお見舞いを申し上げます。



さて、去る7月4日、文部科学省より、生成AIの利用に関する暫定的なガイドラインが示されました。生成AIとは、コンピュータが学習したデータをもとに、新しいデータや情報をアウトプットする技術です。人間が行う「考えること」「計画すること」などを人工知能が実行し、新しいアイデアを生み出します。

ChatGPTやBingChatなどの主な生成AIは、利用規約上、小学生は対象外となりますが、今後おそらく出会うことになるであろう人工知能を適切に利活用をしないとはならないと考えます。今回示されたガイドラインの中に、対話型人工知能を使いこなすための必要な資質などが示されていたので紹介します。

「最後は自分で判断するという基本姿勢」

「一定の知識や自分なりの問題意識とともに、真偽を判断する能力」

「AIに自我や人格はなく、あくまでも人間が発明した道具であることを十分に認識する。」とあります。学校では、これらのことも踏まえ、デジタルシティズンシップ教育を進めて参ります。

いよいよ夏休みとなります。子ども達が家庭や地域に帰ります。この4か月間、保護者の皆様をはじめ学校運営協議会委員の皆様、後援会・地域の皆様方には、登下校の安全見守り、あたたかな声かけ、学習支援、学校の環境整備等、たいへんお世話になりました。

本来であれば、お世話になった方々お一人お一人に直接感謝の気持ちをお伝えすべきところですが、この場を借りて、お世話になった全ての皆様に御礼を述べさせていただきます。本当にありがとうございました。また、子ども達にとって充実した夏休みとなるよう、熱中症予防・感染予防、及び交通事故・水難事故等の未然防止に関し、細かな見守りと見届けをどうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、「オモダカ・ルピナスコーナー」については、7月号でお知らせしましたが、過日、地域の方がメッセージを届けてくださったので紹介します。ありがとうございます。

畑で草取りをしていると、八代小の下校する子ども達が元気にあいさつしてくれます。とってもうれしいです。



八代小でいただいた朝顔の種(*)、はじめはなかなか芽が出ず心配でしたので、芽が出た時はうれしかったです。それから毎日見ていました。今日(7/5)、とってもきれいに咲いてくれました。ありがとうございました。

* 来校されたお客様に学校で採種できたものをお渡しした時期がありました。他の方からも同様のお電話をいただきました。

全校朝会（7月講話朝会）での話から

7月の講話朝会（全校朝会）では、『為すことで得られるすばらしさ』を主題とし、講話を行いました。以下、学校だより用に書き下ろしたものです。

「みなさんは、最近あった出来事で、どのような『うれしかった瞬間』がありましたか。時間の都合で申し訳ありませんが、2人ほど聞いてみたいと思います。誰かに紹介してほしいのですが、どうでしょう。」と投げかけました。すると、高学年と中学年から1人ずつ発表してくれました。

「好きな野球チームが勝ったことです。」

「カードゲームで、いいカードが出たことです。」

「なるほど、『好きな野球チームを応援するという行為』、『カードゲームを熱心に行うという行為』があったからこそ味わえた、『うれしかった瞬間』ですね。」



続いて、わたしの『うれしかった瞬間』の紹介です。

「わたしが最近うれしかったの瞬間は…、蝶におしっこをかけられたことです。」

すると、子ども達は目を丸くして、「ええっ？」という反応です。確かに、どうしてそれが『うれしかった瞬間』なのかについて、即座に理解することは困難だったことでしょう。

（羽化に失敗した蝶の画像を見せ）

「これが何だか分かりますか？」

と問いかけると、すかさず3年生が声を揃え、自信をもって答えます。

「ツマグロヒョウモン！」

さすがは3年生。5月にわたしが家から連れてきた二十数匹のツマグロヒョウモンの幼虫を日々熱心に観察し、蛹化、羽化を見届け、自然に帰す経験をしただけのことがあります。

そして、次のように話を進めました。

「この蝶は、ぶら下がっている蛹から出て、その蛹につかまって飛ぶ準備を整えます。しかし、この蝶は、そのとき下に落ちてしまったようで、翅（はね）を広げのぼすことができなかつたのです。翅がたたまたまの状態で乾いてしまい、結果としてこの蝶は飛ぶことができません。このまま自然に帰しても、飛ぶことはもちろん、餌をとることもできません。すぐに鳥に食べられてしまうことにもなるでしょう。そこでわたしは、できる範囲で世話をすることにしました。」



通常はさなぎにつかまって翅をのぼす



餌はスポーツドリンクを薄めたものを与えています。（動画を見せ）こちらがそれを飲んでいる様子です。ストローみたいに、口を伸ばして飲んでいる様子が分かるでしょう。

ある日、餌の取り替えをするために蝶を手に乗せていたとき、ピュピュッとおしっこをかけられたのです。その小さな体からすると、けっこうな量に思えます。その瞬間、わたしは『こんなにも水分（餌）をとれていたのだな。がんばって生きているのだな。』ということを実感し、それがとてもうれしかったのです。もう1か月近くも元気にしていますよ。」

【7月19日現在で40日を経過】

結びに、『何もしなければ始まらない。為すことで何か分かること、感じることもある。ぜひいろいろなことに挑戦してほしい。』という趣旨の話をして講話を終えました。

少し短くなった夏休みですが、子ども達がたくさんの経験・学びを通し、さらに輝きますように。